

<u>科目名</u>	<u>科目担当代表教員</u>	<u>ページ数</u>
こども発達学特別研究Ⅱ	加藤 裕明	2
こども発達特論	小椋 佐奈衣	7
インクルーシブな教育・保育特論	木谷 岐子	12
教育課程・方法特論	加藤 裕明	17
こども発達支援総論	加藤 裕明	22
こども発達学実践演習Ⅰ	山本 愛子	27
こども発達学実践演習Ⅱ	小椋 佐奈衣	32
こども発達学実践演習Ⅲ	加藤 裕明	37
発達支援分析評価法実践演習	山本 愛子	42
こども発達支援・臨床相談特別演習	山本 愛子	47

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究所					
区分		研究指導 研究指導					
科目名		こども発達学特別研究Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分		単位	2
担当教員	加藤 裕明、白幡 知尋、山口 宗兼、山本 愛子、小田 進一、木谷 岐子、小椋 佐奈衣、村越 含博、村田 敏彰						
授業の位置づけ							
<p>「こども発達学特別研究Ⅱ」では、複数の教師による共同講義「こども発達支援総論」の設定、高度な学問的成果と実践を往還しながら創意ある実践を展開するための「発達支援分析評価法実践演習」、実践研究のためのフィールドに足場を置きながら学習を深めることを可能にする「こども発達学実践演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」および「こども発達学特別研究Ⅰ」をふまえ、院生各自の研究テーマを研究計画書に具現化する。そして、修士論文の完成に向け「こども発達学特別研究Ⅲ」に接続する科目として位置づけられる。</p>							
授業の概要							
<p>修士論文中間発表会に向けて、院生各自が設定した「研究計画書」に基づいた研究の進捗状況を確認する。その上で、研究計画書に基づいた予備調査、本調査、アクションリサーチ等により収集された資料の整理、分析を進め、先行研究との比較・検討を加えながら、考察を深めていく。</p>							
到達目標							
<p>「こども発達学特別研究Ⅰ」でまとめた「研究計画書」とりわけ、「問題関心」、「研究の目的」、「研究の方法」、「先行研究」(文献)一覧をふまえ、各自の研究の独自性を中間発表会のなかで発表し、そこで得た知見を組み入れながら、修士論文の作成に向けた検討に着手する。</p>							
授業の方法							
<p>実践的教育・研究の指導を通じて、今日の幼児期・学童期の保育・教育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成」するために、これまでの授業とあわせて、実践演習のためのフィールドでの経験をさらに発展させ、修士論文として発展させる手がかりを得るために、情報を共有したうえで対話を深め、各自の研究テーマを探究するアクティブ・ラーニングの場を提供する。</p>							
ICT活用							
<p>e-ラーニングのプラットフォームを活用し、遠隔授業を効果的に取り入れる。また、各自の論文草稿を、プラットフォーム上で共有し、対話と探究によるアクティブ・ラーニングにつなげていく。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

担当者には、保育園、幼稚園、子育て教育地域支援センター、カウンセラー、特別支援学校教諭、高等学校教諭など保育・教育の現場における実務経験が豊富にあり、そこで培われた実践的な知見を大学院生の修士論文に活かすよう指導を展開する。

課題に対するフィードバックの方法

授業は毎回、院生の修士論文草稿に対するフィードバックで構成される。そのフィードバックをもとに、対話的学びを実践し、修士論文の作成に向かっていく。すなわちフィードバックと論文修正との螺旋的な進行によって、修士論文の完成に向かう。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	各自、修士論文中間発表会に向けて、「研究計画書」に基づいた研究計画の進捗状況を報告し、対話する。	(準備学習) 修士論文の作成に向けての研究テーマの設定、および先行研究、関連資料の収集についての準備を進める。	(事後学習) 新しく得た情報を整理する。
担当教員			
第2回	研究計画の発表と討論① 研究計画を発表し、他者と対話する。対話に基づいて研究計画の修正を行う。	(準備学習) 修士論文の作成に向けての研究テーマの設定、および関連資料の収集についての準備を進める。	(事後学習) 新しく得た情報を整理する。
担当教員			
第3回	研究計画の発表と討論② 修正した研究計画を発表し、教師や他の参加者と対話し、研究計画全体の主旨をさらに明確にする。	(準備学習) 修士論文の作成に向けての研究テーマの設定、及び関連資料の収集についての準備を進める。	(事後学習) 新しく得た情報を整理する。
担当教員			
第4回	研究計画の発表と討論③ 研究計画の中の、特に「問題関心」について対話し、その主旨をさらに明確にする。	(準備学習) 修士論文の作成に向けての研究テーマの設定、及び関連資料の収集についての準備を進める。	(事後学習) 新しく得た情報を整理する。
担当教員			

第5回	研究計画の発表と討論④ 研究計画の中の、特に「研究の背景」について対話し、その主旨をさらに明確にする。	(準備学習) 修士論文の作成に向けての研究テーマの設定、及び関連資料の収集についての準備を進める。	(事後学習) 新しく得た情報を整理する。
担当教員			
第6回	研究の前段的遂行① 問題関心、研究の背景、研究の目的、先行研究の整理等に基づき、本研究の前段階としての予備調査の計画を立案する。	(準備学習) 修士論文の作成に向けての研究テーマの設定、及び関連資料の収集についての準備を進める。	(事後学習) 新しく得た情報を整理する。
担当教員			
第7回	研究の前段的遂行② 本研究の前段階としての予備調査を実施する上で、研究倫理に関し、必要な手続きを確認する。	(準備学習) 修士論文の作成に向けての研究テーマの設定、及び関連資料の収集についての準備を進める。	(事後学習) 新しく得た情報を整理する。
担当教員			
第8回	研究の前段的遂行③ 本研究の前段階としての予備調査を実施する上で必要な研究倫理を明確にする。	(準備学習) 修士論文の作成に向けての研究テーマの設定、及び関連資料の収集についての準備を進める。	(事後学習) 新しく得た情報を整理する。
担当教員			
第9回	研究の前段的遂行④ 本研究の前段階としての予備調査の実施に向け、研究倫理の確認を行う。また、必要に応じ、本学の研究倫理審査委員会に申請する。	(準備学習) 修士論文の作成に向けての研究テーマの設定、及び関連資料の収集についての準備を進める。	(事後学習) 新しく得た情報を整理する。
担当教員			
第10回	研究の後段階的遂行① 研究の倫理性に鑑み、各自の研究計画書全体の構成をさらに明確にする。	(準備学習) 修士論文の作成に向けての研究テーマの設定、及び関連資料の収集についての準備を進める。	(事後学習) 新しく得た情報を整理する。
担当教員			

第11回	研究の後段階的遂行② 研究の倫理性に鑑み、各自の研究計画書における「研究の目的」をさらに明確にする。	(準備学習) 修士論文の作成に向けての研究テーマの設定、及び関連資料の収集についての準備を進める	(事後学習) 新しく得た情報を整理する。
担当教員			
第12回	研究の後段階的遂行③ 研究の倫理性に鑑み、各自の研究計画書における「研究の方法」をさらに明確にする。	(準備学習) 修士論文の作成に向けての研究テーマの設定、及び関連資料の収集についての準備を進める。	(事後学習) 新しく得た情報を整理する。
担当教員			
第13回	研究の後段階的遂行④ 研究指導チームによる指導のもと、本研究をさらに発展させ、研究のまとめに着手する。	(準備学習) 修士論文の作成に向けての研究テーマの設定、及び関連資料の収集についての準備を進める。	(事後学習) 新しく得た情報を整理する。
担当教員			
第14回	修士論文中間発表会に向けた発表資料の準備① 主指導教員からのアドバイスを受けながら、パワーポイントの作成、発表要旨の作成を進める。	(準備学習) 中間報告に向けた発表資料の準備	(事後学習) 新しく得た情報を整理する。
担当教員			
第15回	中間報告に向けた発表資料の準備② 副指導教員からのアドバイスを受けながら、パワーポイントの作成、発表要旨の作成を進める。	(準備学習) 中間報告に向けた発表資料の準備	(事後学習) 新しく得た情報を整理する。
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	研究計画書の立案、発表、また研究倫理への配慮などの取組から総合的に評価する。

その他	0	
教科書		
大学院生の問題関心に合わせて適宜紹介します。		
参考文献		
大学院生の問題関心に合わせて適宜紹介します。		
履修条件・留意事項等		
各自の修士論文ををよりよいものにしていくための機会として位置づけていくという姿勢で授業に臨んでもらいたいと思います。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		実践力の基礎科目群 こども発達学基礎科目					
科目名		こども発達特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分		単位	2
担当教員	小椋 佐奈衣						
授業の位置づけ							
<p>「こども発達特論」は、人間の発達的变化とその背景と問題との関連性についてプロセスを考究するための学問であり、こども発達学の基礎となる科目である。</p> <p>また、「こども発達特別演習」の基盤となる科目であり、講義内容に関連性がある。</p>							
授業の概要							
<p>①乳児期から児童期の発達的变化に基づき、発達を可能にしている諸条件を探求する。</p> <p>②こどもの発達の特性を理解し、幼児教育や学校教育の現場が抱える諸問題を考究する。</p> <p>③こどもの発達と諸要因の関連を検討し、多角的に人間精神と子どもの発達を広い視点で考察する。</p>							
到達目標							
<p>①学生は保育、幼児教育、学校教育、特別支援教育の現場における実践とその課題を捉える。</p> <p>②学生は理論と実践の関連性について、学問的に理解を深めて活用するための討議をする。</p> <p>③学生はこどもの発達の特性の知識と知見を探求して、専門性のある対応方法を構築する</p>							
授業の方法							
<p>教科書、プリントを使用した講義形式ならびにディスカッション形式で行う。必要に応じてDVDなどの映像資料を用い、理解を深める。適宜、授業内でリアクションペーパーを配布する。リアクションペーパーの意見、感想は、次回の講義に反映させる。授業内の小レポートで、学習内容の確認を行う。</p>							
ICT活用							
<p>Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

児童相談所で発達相談および支援業務、国立大学の研究機関で発達障害の研究に従事、短期大学の教員などこども発達学に関する実践的経験を有する。大学院ではこどもの発達研究を行い、博士の学位を取得した。以上の経験を活かし、学生が目指している発達支援や教育について、そのニーズに基づく研究活動としての調査、論文作成のための専門性と知識の伝授および指導をする。

課題に対するフィードバックの方法

小レポート、リアクションペーパーに記入された受講生の意見を共有、フィードバックする時間を設ける。課題に対しては、コメントを返します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	発達の定義と発達の規定因・生涯発達の視点について学びと考察をする。	(準備学習)事前に配布されたシラバスに目を通しておく。(90分)	(事後学習)配布資料の整理と文献や論文を参照する。(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第2回	発達の理論①発達とは何か？脳の機能について仕組みを理解して知識を探究する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(90分)	(事後学習)配布資料の整理と文献や論文を参照する。(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第3回	発達の理論②発達とは何か？環境と遺伝の相互作用について考究する	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(30分)	(事後学習)配布資料の整理と文献や論文を参照する。(30分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第4回	胎児期・新生児期の特徴と発達について専門用語と感覚器官と感覚機能の知識を探究する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(90分)	(事後学習)配布資料の整理と文献や論文を参照する。(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		

第5回	乳児期の精神と発達について愛着形成に着目して考究する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(90分)	(事後学習)配布資料の整理と文献や論文を参照する。(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第6回	乳幼児期の精神と発達について認知発達と言語発達に着目して考究する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(90分)	(事後学習)配布資料の整理と文献や論文を参照する。(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第7回	3歳児の精神と発達について知見と集団生活の具体的事例を通して学びと考察をする	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(90分)	(事後学習)配布資料の整理と文献や論文を参照する。(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第8回	4歳児の精神と発達について知見と仲間関係の具体的事例を通して学びと考察をする。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(90分)	(事後学習)配布資料の整理と文献や論文を参照する。(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第9回	5歳児の精神と発達について知見と道徳性・協同性の具体的事例を通して学びと考察をする。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(90分)	(事後学習)配布資料の整理と文献や論文を参照する。(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第10回	児童期(学童期)前期の特徴と行動・発達と教育の関係について考究する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(90分)	(事後学習)配布資料の整理と文献や論文を参照する。(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		

第11回	児童期(学童期)後期の特徴と行動・発達と教育の関係について考究する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(90分)	(事後学習)配布資料の整理と文献や論文を参照する。(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第12回	生涯発達の概観について思春期・青年期・成人期・壮年期・老年期を考究する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(90分)	(事後学習)配布資料の整理と文献や論文を参照する。(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第13回	親子関係・家族関係とこどもの発達との関連性について考察する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(90分)	(事後学習)配布資料の整理と文献や論文を参照する。(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第14回	保育・幼児教育・学校教育の現場における課題を考察する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(90分)	(事後学習)配布資料の整理と文献や論文を参照する。(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第15回	特別支援教育の取り組みや社会的状況を考察する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(90分)	(事後学習)配布資料の整理と文献や論文を参照する。(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	定期試験(50%)、テスト授業に関するレスポンスシートや課題の内容(25%)、授業での対話・討論への参加状況(25%)によって評価する。	

その他	0	なし
教科書		
「よくわかる発達心理学」ミネルヴァ書房、「よくわかる教育心理学」ミネルヴァ書房、「ベーシック発達心理学」東京大学出版会		
参考文献		
各回資料を配布する。		
履修条件・留意事項等		
各自の研究を構築していくために発達心理学および教育心理学を学ぶ位置づけの授業である。留意点として現場の経験を通してこどもの発達に関する討論等への積極的な参加が求められる。		
備考欄		
2022年(令和4年)4月以降、『幼稚園専修免許状』、『小学校教諭専修免許状』に関する教育課程の科目であり、『大学が独自に設定する科目』の『教育の基礎的理解に関する科目』区分における選択必修科目である。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		実践力の基礎科目群 こども発達学基礎科目					
科目名		インクルーシブな教育・保育特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分		単位	2
担当教員	木谷 岐子						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「家庭や地域社会の変化に伴うこども発達の実態やニーズの多様化に対応して、適切な支援、指導、教育の実践を展開できる。(知識・技能)」、「教育、保育において、多様なニーズを有するこどものインクルーシブな教育・支援を展開できる。(知識・技能)」と関係する科目である。							
授業の概要							
子どもたちの持つ特性と取り巻く環境との折り合いの不十分さが、ひずみとして累積的に蓄積されるプロセスについて学習する。その理解の枠組みを通して、援助を必要としている子どもたちの抱える心理的な課題を明らかにし、支援の在り方を明らかにしていく。授業は演習方式で実施し、受講者全員で授業を作り上げる参加型の方法を採用する。そこでは、各自のこれまでの経験を全体で共有できるような場を設定する。							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの多様なニーズを捉える視点をもつことができる。 2. 学んだ内容と、大学院生自身の経験を関連づけることができる。 3. 保育、幼児教育、および学校教育における具体的な実践と関わらせながらインクルーシブな教育・保育への取り組みを実現していく考え方について述べることができる。 							
授業の方法							
授業は演習方式で実施し、受講者全員で授業を作り上げる参加型の方式を採用する。そこでは、各自のこれまでの経験を全体で共有できるような場を設定する。							
ICT活用							
Google Suite for Education 等のプラットフォームを活用し、遠隔授業を効果的に取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

臨床心理士/公認心理師として、発達相談及び、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー業務に従事した実務経験を活かし、発達障がいに関する知識と理解、さらに、対応方法についての学びを提供する。

課題に対するフィードバックの方法

授業におけるディスカッション、及び複数回のレポートへのコメントによってフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション インクルーシブな教育・保育に関する社会的動向の概要を理解する。また、多様なニーズを持つ子どもに対するイメージや、各自のこれまでの対応経験を確認する。	発達障がいに対する自分の理解をまとめる(90分)	他の受講生の発言や、授業で取り扱われた内容について、重要と思われる事柄を取り上げ、まとめておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第2回	ASDとはどのような障がいなのかについて、視聴覚教材等を活用しながら理解する。	ASDの特徴がある人が直面する課題について調べる。(90分)	授業で紹介された事例について整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第3回	ASDの特徴がある人の事例を紹介しながら、どのような課題に直面しているのか理解を深める。	ASDの特徴がある人が直面する課題について調べる。(90分)	授業で紹介された事例について整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第4回	ADHDの特徴がある人の事例を紹介しながら、どのような課題に直面しているのか理解を深める。	ADHDの特徴がある人が直面する課題について調べる。(90分)	事例の課題と支援の在り方を整理する。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第5回	LDの特徴がある人の事例を紹介しながら、どのような課題に直面しているのか理解を深める。	LD概念の変遷について調べる。(90分)	LDがある人がどのような課題をもつのかについてまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第6回	●こどもがもつ多様なニーズ① 発達障がい以外の視点に限らず、様々なニーズを持つこどもがいることを知り、こどもの思いに寄り添うこととは、どのようなことなのかを学ぶ。	こどもの多様なニーズについてこれまで学んできたことをまとめる。(90分)	授業で紹介された事例について整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第7回	●こどもがもつ多様なニーズ② 発達障がい以外の視点に限らず、様々なニーズを持つこどもがいることを学び、こどもを理解するための視野を広げる。	こどもの多様なニーズについてこれまで学んできたことをまとめる。(90分)	配付されたプリントを参考にして、こどもがもつ多様なニーズについてまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第8回	●障がいと共にある人への社会のサポート① 障がいと共にある人への社会のサポート体制について、乳幼児期から成人期まで整備されている様々なサポートの全体像を学ぶ。	障がいと共にある人への社会のサポートについて調べる。(90分)	配付されたプリントを参考にして、社会のサポート機能についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第9回	●障がいと共にある人への社会のサポート② 児童発達支援の分野で行われている、こどもへの支援や、保護者への支援について学ぶ。	児童発達支援について調べる。(90分)	配付されたプリントを参考にして、児童発達支援についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第10回	●特性シート① 発達障がいの特性をまとめるのに役立つシートを紹介する。項目の意味や記入方法について、記入例を通して理解を深める。	自分自身の得意や苦手について書き出す。(90分)	自分の特性シートの内容を見直して、気付いたことを書き出す。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第11回	●特性シート② 自分自身の特性をシートに書き起こしてまとめる。グループ内で、互いに知識や理解を補い合いながら演習を行う。	シートの内容でわからないところがないか点検する。(90分)	自分自身の特性をまとめたシートを見直して、気付いたことなどを整理する。(90分)
担当教員 木谷 岐子			
第12回	●特性シート③ 教育・保育の実践現場で、多様なニーズがあることについての事例をあげて、特性シートを書き起こしてまとめる。	これまでに出会った、多様なニーズがあることについて想起し、書き出す。(90分)	多様なニーズがあることのも特性をまとめたシートを見直して、気付いたことなどを整理する。(90分)
担当教員 木谷 岐子			
第13回	●視覚的支援方法① 教育・保育の実践現場で、多様なニーズがあることについての事例をあげて、視覚的支援の方法について理解を深める。	視覚的支援方法について調べる。(90分)	視覚的支援の道具作りの設計書を完成させる。(90分)
担当教員 木谷 岐子			
第14回	●視覚的支援方法② 視覚的支援の道具作りの演習を通して理解を深める。	視覚的支援の道具作りの設計書を元に、必要な材料をそろえる。(90分)	視覚的支援の道具作りを通して気づいたことを整理する。(90分)
担当教員 木谷 岐子			
第15回	・まとめ 15回の授業を通して得られた気づきや、考えについてレポートにまとめ、それを元にディスカッションする。	全15回の授業についての振り返りを行う。(90分)	ディスカッションから得られた気づきを各自、整理しておく。(90分)
担当教員 木谷 岐子			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	演習での発表及び討論への参加の積極性(50%)レポートの取組によって評価する(50%)。

その他	0	
教科書		
必要な資料はその都度配付する。		
参考文献		
続・発達障害のある女の子・女性の支援: 自分らしさとカモフラージュの狭間を生きる 金子書房		
履修条件・留意事項等		
この講義では、積極的な授業参加態度が求められている。		
備考欄		
2022年(令和4年)4月以降、『幼稚園専修免許状』、『小学校教諭専修免許状』に関する教育課程の科目であり、『大学が独自に設定する科目』の『教育の基礎的理解に関する科目』区分における選択必修科目である。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		実践力の基礎科目群 こども発達学基礎科目					
科目名		教育課程・方法特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分		単位	2
担当教員	加藤 裕明						
授業の位置づけ							
<p>①「教育課程・方法特論」(以下、本授業)は、こどもの学びの姿を見とり、確かな学力を獲得させるための教育方法に関し、理論と実践とを往還させながら探究する力を身につけるための科目である。</p> <p>②「教育課程・方法特別演習」、「教育内容・教材特論」、「教育内容・教材特別演習」、「教育方法実践特論」、「教育方法実践特別演習」等と接続し、教育課程論、教育方法論に関するあらたな研究の課題と方法を探究する科目である。</p>							
授業の概要							
<p>この授業では、保育、幼児教育や学校教育における教育課程編成のあり方を、教育現場に置ける実践と結びつけて考察を深める。特に近年重視されている対話的な学び、協同的な学びの方法に関し、テキスト、参考文献をもとに受講者にレポートしてもらい、参加者相互の対話・討論によってアクティブ・ラーニングを進める。</p>							
到達目標							
<p>①教育課程とカリキュラムの違いについて説明できる。</p> <p>②「社会情動的スキル」(非認知的スキル)の概念を現実の学習活動にあてはめ説明できる。</p> <p>③保育、幼児教育と学校教育との接続に関する対話的活動に意欲的に参加できる。</p>							
授業の方法							
<p>①パワーポイントや印刷配布物を用いて解説する。</p> <p>②少人数のゼミ形式によってすすめる。</p> <p>③受講者にレポートを提出してもらい、そのレポートの発表を軸に対話・討議を展開し、アクティブ・ラーニングを展開する。</p>							
ICT活用							
<p>・e-ラーニングのプラットフォームを活用し、遠隔授業を効果的に取り入れる。また、参加者のレポートをプラットフォーム上で共有し、アクティブ・ラーニングを深める。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

・加藤は公立高等学校に30年間勤務し、教科指導、HR指導、生活指導をはじめとする実践経験を有する。この経験をふまえ、教師の学びと育ちについての考察を深めてきた。さらにこの間、部活動指導にも従事し、演劇教育を専門的に研究し、博士学位を取得した。以上の経験を活かし、子どもたちの信頼関係づくり、協働的、活動的な学びと表現創造、そして「社会情動的スキル」(非認知スキル)の育み方等について、具体的な子どもの姿を通して、アクティブ・ラーニングを実践していく。

課題に対するフィードバックの方法

・この授業は、受講生が相互にレポートを作成し、その報告を議論の材料として、アクティブ・ラーニングを軸に展開する。したがって授業展開のあり方全体が、常に受講生へのフィードバックによってデザインされる。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション:大学院における授業の進め方	シラバスを読み、大学院における各自の研究テーマや問題意識について他の参加者と対話できるよう準備する。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員			
第2回	・新しい幼稚園教育要領及び小学校指導要領を、社会情動的スキルの面から検討する。	・社会情動的スキルとは何か、について調べておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員			
第3回	・幼児教育と社会情動的スキル(非認知的スキル)の関係に関し検討する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員			
第4回	・「学力の3要素」に関し、社会情動的スキルの観点から検討する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員			

第5回	・幼児教育と学校教育を接続する「アプローチカリキュラム」の編成に関し検討する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員			
第6回	・「アプローチカリキュラム」としての「哲学対話」の実践を検討する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員			
第7回	・幼児教育における「哲学対話」の可能性を討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員			
第8回	・幼児期の遊びと育ちをふまえた「スタートカリキュラム」の編成を検討する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員			
第9回	・「アプローチカリキュラム」と「スタートカリキュラム」の関係に関し討議する。	・「保育所保育指針」を読む。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員			
第10回	・子どもたちの「遊び」の実態に関し参加者間で討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員			

第11回	・「学びのカリキュラム」編成に関し参加者間で討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員			
第12回	・「対話的な学び」を軸とした授業づくりに関し参加者間で討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員			
第13回	・「協同的な学び」を軸とした学校改革に関し参加者間で討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員			
第14回	・「習熟度別授業」の問題点に関し参加者間で討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員			
第15回	・授業全体をふりかえり参加者間でテーマを決め討議する。	・これまでの授業をふりかえり、他の参加者と対話できるよう準備する。(90分)	・授業をふりかえり、自分の研究の問題意識との関連を考察する。(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・授業内で活用するレポート内容(40%)、レポートの口頭発表(20%)、授業における対話、討議への活発な参加(40%)

その他	0	
教科書		
・授業内で、適宜テキストを指示します。		
参考文献		
・川口創+平松知子(2017)『保育と憲法』大月書店 ・近藤幹生(2018)『保育の自由』岩波新書 その他、授業内で適宜紹介する。 ・佐藤学(2012)『学校改革の哲学』東京大学出版会. ・佐藤学(2021)『第四次産業革命と教育の未来 ポストコロナ時代のICT教育』岩波書店. ・鯨岡峻(2005)『エピソード記述入門』東京大学出版会		
履修条件・留意事項等		
・各自の研究を構築していくための機会として、授業における口頭発表、対話を積極的に活用してもらいたいと思います。		
備考欄		
・2022年(令和4年)4月以降、『幼稚園専修免許状』、『小学校教諭専修免許状』に関する教育課程の科目であり、「大学が独自に設定する科目」の「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目」区分における選択必修科目です。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		実践力の基礎科目群 発達支援に関する総論					
科目名		こども発達支援総論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分		単位	2
担当教員	加藤 裕明、白幡 知尋、山口 宗兼、山本 愛子、小椋 佐奈衣						
授業の位置づけ							
<p>①「こども発達支援総論」(必修)(以下、本授業)は、今日のこどもの発達の実態とニーズの多様化に対応するため、教育学、心理学、特別支援教育学等の成果に学び、研究と実践との往還の中から、より高度な実践力の形成を計るための科目である。</p> <p>②本授業は、研究科の教育課程の中核に位置し、障害児教育、教育方法学、幼児教育の各科目の基礎と位置付けられる科目である。</p>							
授業の概要							
<p>①この授業では、幼児教育や学校教育現場が抱える諸問題に関する知識を習得する。</p> <p>②諸問題の解決の手がかりとして、カリキュラム編成、教育方法及び教育内容に関わる理論を活用する技能を習得する。</p> <p>③子どもの発達を促す諸条件について探究する。</p>							
到達目標							
<p>①幼児教育、学校教育、特別支援教育における子どもの発達を説明できるようになる。</p> <p>②理論と実践の知見を活用するための対話・討論に積極的に参加できるようになる。</p> <p>③幼児期と児童期の連続性、およびインクルージョンに関する知見を活用し、議論に参加できるようになる。</p>							
授業の方法							
<p>①パワーポイントや印刷配布物を用いて解説する。</p> <p>②少人数のゼミ形式であり、対話・討論活動を軸にすすめる。</p> <p>③自身の実践や経験をふまえた、課題を提示してもらい、対話・討議を取り入れながら授業をすすめる。</p>							
ICT活用							
e-ラーニングのプラットフォームを活用し、遠隔による探究の場を効果的に取り入れる。また、各自の研究計画やレポートを院生間で共有し、発表や対話の資料を作成し、アクティブ・ラーニングをすすめる。							
実務経験のある教員の教育内容							

教員は、保育園、こども園、幼稚園、そして小学校等での豊かな実務経験を持つ。その経験を活かし、院生が設定した研究テーマへの取り組みを支援する。

課題に対するフィードバックの方法

授業では、e-ラーニングのプラットフォームを活用し、各自のレポートを参加者間で共有し、教員からのフィードバックを毎行い、参加者同士の対話を軸に展開する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・教育の目的を教育基本法の原点(1947年)をふまえ考察する。	資料を熟読し意見をまとめる。(90分)	各回に提示されるアクションレポートを作成する。(90分)
担当教員	加藤 裕明		
第2回	・教育課程と「カリキュラム」の本質的な差異をふまえ、教育目的の実現のためのカリキュラム編成のあり方を考察する。	資料を熟読し意見をまとめる。(90分)	各回に提示されるアクションレポートを作成する。(90分)
担当教員	加藤 裕明		
第3回	・子どもの主体性に基づく教育実践はいかにすれば可能かを議論する。	資料を熟読し意見をまとめる。(90分)	各回に提示されるアクションレポートを作成する。(90分)
担当教員	加藤 裕明		
第4回	・発達障がいと共に在る方の姿のライフストーリー研究を通して学ぶ。	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるアクションレポートを作成する。(90分)
担当教員	白幡 知尋		

第5回	・障がい受容について、保護者と本人それぞれの視点を学ぶ。	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるアクションレポートを作成する。(90分)
担当教員	白幡 知尋		
第6回	・発達障がいと共に在る方への支援について学ぶ。	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるアクションレポートを作成する。(90分)
担当教員	白幡 知尋		
第7回	・幼保小連携について、幼稚園教育要領・保育所保育指針等の視点から、具体的事例を通して学ぶ。	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるアクションレポートを作成する。(90分)
担当教員	山口 宗兼		
第8回	・幼保小連携について、アプローチカリキュラムの視点から、具体的事例を通して学ぶ。	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるアクションレポートを作成する。(90分)
担当教員	山口 宗兼		
第9回	・幼保小連携について、スタートカリキュラムの視点から、具体的事例を通して学ぶ。 (山口宗兼)	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるアクションレポートを作成する。(90分)
担当教員	山口 宗兼		
第10回	・発達支援における「援助者への援助」について学習する。ここでは、特に、対人援助の領域において援助者が被援助者から受ける影響に関して、ボランティア及び福祉専門職の事例を通して学び、援助者への援助のあり方について考える。	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるアクションレポートを作成する。(90分)
担当教員	山本 愛子		

第11回	・関係力育成プログラムに基づく子育て支援について学習する。ここでは、本学の子育て教育地域支援センターにおける子育て支援の理論と実際について、映像資料及び文献講読を通して学ぶ。 (山本愛子)	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるリアクションレポートを作成する。(90分)
担当教員	山本 愛子		
第12回	・発達支援の領域における母親支援としてのミュージックセラピーについて学習する。ここでは、子育て・発達支援の領域における母親への心理的支援のあり方に関して、音楽療法的視点から考察する。	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるリアクションレポートを作成する。(90分)
担当教員	山本 愛子		
第13回	・乳児期の保育の再考: 幼児期の教育の現状と課題及び乳幼児期の発達に応じた保育内容について考察する。	テーマの自己理解の整理。指定の論文の読み込み。(90分)	検討課題の整理。13～15を通してのレポート作成。(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第14回	・保育環境の可能性: 保育環境のデザインの構築および保育の基本的な生活習慣の考察をする。	テーマの自己理解の整理。指定の論文の読み込み。(90分)	検討課題の整理。13～15を通してのレポート作成。(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第15回	・保育の専門性、実践概念の探究: 保育者自身の専門職意識、保育及び保育者のアイデンティティについて考察する。	テーマの自己理解の整理。指定の論文の読み込み。(90分)	検討課題の整理。13～15を通してのレポート作成。(90分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・授業に関するリアクションレポートの内容(50%)、および授業での対話・討論への参加状況(50%)によって評価する。	

その他	0	
教科書		
・各回、それぞれの担当者から提示されます。		
参考文献		
・各回、それぞれの担当者から提示されます。		
履修条件・留意事項等		
・各自の修士論文をよりよいものとするための学びの場として臨んでもらいたいと思います。		
備考欄		
・2022年(令和4年)4月以降、『幼稚園専修免許状』、『小学校教諭専修免許状』に関する教育課程の科目であり、「大学が独自に設定する科目」の「教育の基礎的理解に関する科目等」区分における選択必修科目である。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究所					
区分		理論と実践の往還から学ぶ科目群 こども発達学実践演習科目					
科目名		こども発達学実践演習 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分		単位	2
担当教員	山本 愛子、西野 美穂						
授業の位置づけ							
<p>この科目は、実践研究のための研究資料の作成や院生相互の「行動観察」の力量形成にとって意味を持つと考えられる。本研究科では、院生各自が関心を持つ実践研究のためのフィールドに足場を置きながら学習を深めることを可能にする「こども発達学実践演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」が教育課程に組み込まれている。これらの実践演習の担当者には実践研究に精通した教員が配置される。なお、ディプロマポリシーでは、主に「関心・意欲・態度」の領域における「理論と実践の往還の中からの学びにより、こどもの成長・発達を実現するための創意ある実践を展開できる中堅のリーダーとしての自覚がある」に関わる科目として位置付けている。</p>							
授業の概要							
<p>本学の子育て教育地域支援センター(文教ペンギンルーム)をベースにして進められる。ここでは、主として、就学前の地域の子どもと保護者に対する発達支援の取組に陪席しながら、①発達支援対象の子どもと保護者の実際の支援を進める上で必要とされる情報の収集(子どもの発達の状況・特性等の情報を含む)と支援計画の立案の検討作業への参画、②関係力育成プログラム(文教ペンギンメソッド)をベースにした発達支援活動(ペンギン・ミュージックプログラムを含む)への参加、③ケースレポートの作成を通して「場を通じた支援のあり方」について実践的に学習する。これらの学習の成果は、次に続く修士論文の作成のための基礎資料として有効に活用できるようにしていく。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 関係力育成プログラム(文教ペンギンメソッド)の理論について理解できる。 2. 関係力育成プログラム(文教ペンギンメソッド)を用いた指導実践に参加し、プログラムに沿って、未就学の子ども(特別なニーズをもつ子どもを含む)と保護者に対する関わりをとることができる。 3. ペンギン・ミュージックプログラムについて、子どもを対象とした絵本の読み聞かせに対して音楽を導入する実践の方法を理解できる。 							
授業の方法							
<p>実践的教育・研究の指導を通じて、今日の幼児期・学童期の教育・保育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成」するために、実践演習のためのフィールドでの経験を全員で話し合う場を設定し、各自の実践経験を共有する形で学習を進めていく。</p>							
ICT活用							
<p>この授業では、クリッカー(反応収集提示装置)を用いた行動分析を行う。ここでは、発達支援にかかわって、特に集団遊戯療法場面・音楽を導入した絵本の読み聞かせ場面に焦点を当て、クリッカーを用いた分析を体験する。受講者全員で分析結果のふりかえりを行うことを通じて、幼児・児童の発達支援に関する理解を深める。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

授業担当者(山本)は、公認心理師・音楽療法士等の資格を持ち、これまでに精神科病院・教育相談機関等での臨床経験を有している。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行う。

授業担当者(西野)は、ピアノの演奏家として35年間活動し、ドイツバロック、古典派の芸術音楽のソリスト等の実務経験を有する。また、子どもたちを対象に、恵庭市教育委員会主催のピアノソロコンサートで16年間演奏し、社会貢献を続けてきた。これらの実務経験及び研究業績を生かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業における討論のなかでの授業者からのコメント、及び複数回のレポートについてのコメントによってフィードバックを図っていく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	発達支援のフィールドとしての子育て教育地域支援センター(文教ペンギンルーム)について、センターにおける理論的枠組み、活動内容等の基本事項を学ぶ。また、ここではゲストスピーカーとして子育て教育地域支援センターのセンター員による話題提供を得て、センターの成り立ちや設立から現在までの地域における支援活動の実際について理解を深める。(担当:山本・西野)	事前に配布されたシラバスに目を通しておく。(20分)	演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。(25分)
担当教員			
第2回	子育て教育地域支援センター(文教ペンギンルーム)で作成した「関係力育成プログラム(文教ペンギンメソッド)」に関する指導マニュアルを読み、この指導法について学習する。さらに、「関係力育成プログラム(文教ペンギンメソッド)」を活用した研究論文の講読を行う。(担当:山本)	指定文献について、読み込みをしておく。(25分)	演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。(20分)
担当教員			
第3回	「関係力育成プログラム(文教ペンギンメソッド)」を活用した研究論文を読み、その内容に関してレジュメ・パワーポイント資料を作成し、発表とディスカッションを行う。(担当:山本)	指定文献について、読み込みをしておく。(25分)	演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。(20分)
担当教員			
第4回	「関係力育成プログラム(文教ペンギンメソッド)」によるロールプレイ体験学習を行う。指導者役(チーフ役・サブ役・アシスタント役)、子ども役、保護者役、観察記録役に分かれたロールプレイ体験を通して、このプログラムの実際について学ぶ。また、ロールプレイ体験をふりかえり、それぞれの担当役の立場から考えたことについてレポートを作成する。(担当:山本)	指定文献について、読み込みをしておく。(25分)	演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。(20分)
担当教員			

第5回	「関係力育成プログラム(文教ペンギンメソッド)」の指導に関する評価法について学習する。事前に配布された評価方法に関する研究論文及びクリッカーを活用した研究論文を読み、内容を整理・理解しておくこととする。(担当:山本)	指定文献について、読み込みをしておく。(25分)	演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。(20分)
担当教員			
第6回	クリッカー(反応収集提示装置)を用いた分析法について学ぶ。ここでは、実際の関係力育成プログラム(文教ペンギンメソッド)に基づいた受講生たち自身のロールプレイ体験場面の映像について、クリッカーを用いて分析を行うことを通して、クリッカーを用いた分析の意義について学習する。また、ロールプレイ体験とその分析結果に基づいて「実習体験報告書」を作成する。(担当:山本)	指定文献について、読み込みをしておく。(25分)	演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。(20分)
担当教員			
第7回	子育て教育地域支援センター(文教ペンギンルーム)での関係力育成プログラム(文教ペンギンメソッド)による実際的小集団指導場面への陪席を通して、多様な特性をもつ幼児・児童(特別なニーズをもつ幼児・児童を含む)の発達支援の実践について学習する。また、指導実践記録の作成及び特定の事例についてのケースレポートを作成する。(担当:山本)	指定文献について、読み込みをしておく。(25分)	演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。(20分)
担当教員			
第8回	子育て教育地域支援センター(文教ペンギンルーム)において音楽を導入した子育て支援活動として考案・実践されている「ペンギン・ミュージックプログラム」について、導入の経緯や内容、目的、理論的背景について学ぶ。また、ここではプログラムにおける楽器演奏や歌唱の導入の在り方についても実践例に基づいて学習する。(担当:西野)	指定文献について、読み込みをしておく。(25分)	演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。(20分)
担当教員			
第9回	「ペンギン・ミュージックプログラム」における音楽を導入した絵本の読み聞かせについて、特に幼児期の子どもたちを対象とした実践の方法を学ぶ。ここでは、絵本「そらまめくんのベッド」(なかやみわ著)に即興音楽を導入した実践例を通して、幼児期の子どもたちの特性・発達に合わせたプログラムの構成について学習する。(担当:西野)	指定文献について、読み込みをしておく。(25分)	演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。(20分)
担当教員			
第10回	「ペンギン・ミュージックプログラム」における音楽を導入した絵本の読み聞かせについて、特に学童期の子どもたちを対象とした実践の方法を学ぶ。ここでは、絵本「雪渡り」(宮沢賢治著)にバッハのフランス組曲BWV816を導入した実践例を通して、学童期の子どもたちの特性・発達に合わせたプログラムの構成について学習する。(担当:西野)	指定文献について、読み込みをしておく。(25分)	演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。(20分)
担当教員			

第11回	「ペンギン・ミュージックプログラム」における音楽を導入した絵本の読み聞かせについて、実施を想定したロールプレイ学習を行う。ここでは、指導者役と子ども役に分かれ、実際の場面を想定しながらロールプレイ体験を行うことにより、指導の実際を学習する。(担当: 西野)	指定文献について、読み込みをしておく。(25分)	演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。(20分)
担当教員			
第12回	「ペンギン・ミュージックプログラム」における音楽を導入した絵本の読み聞かせについて、ロールプレイ学習の組織的ふりかえりを行う。ここでは、クリッカー(反応収集提示装置)を用いて、ロールプレイ体験場면을収録した映像を分析する。指導者役と子ども役のかかわり場面について、特に指導者の動きに関する分析を行うことを通して、指導者の動きの適切性や子どもに対する応答的なかかわり方について理解を深める。(担当: 西野・山本)	指定文献について、読み込みをしておく。(25分)	演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。(20分)
担当教員			
第13回	「ペンギン・ミュージックプログラム」における音楽を導入した絵本の読み聞かせについて、実際のプログラムの立案を行う。ここでは、子どもの年齢や特性、発達に合わせて、題材とする絵本の選定、既存の楽曲の使用、即興音楽の導入、楽器の使用、空間構成等の具体的な計画を立て、指導計画書を作成する。(担当: 西野)	指定文献について、読み込みをしておく。(25分)	演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。(20分)
担当教員			
第14回	「ペンギン・ミュージックプログラム」における音楽を導入した絵本の読み聞かせについて、実際の子どもたちを前に計画したプログラムを実践する。また、事後には指導場面について、子どもの発達特性に合った内容としての適切性、音楽の導入の適切性、空間構成の3つの観点から、全員でふりかえりを行い、実践報告書を作成する。(担当: 西野)	指定文献について、読み込みをしておく。(25分)	演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。(20分)
担当教員			
第15回	授業全体のふりかえりを行う。発達支援のフィールドとしての子育て教育地域支援センター(文教ペンギンルーム)における「場を通した支援の在り方」について、これまでの授業をふりかえり、子育て教育地域支援センターのセンター員(ゲストスピーカー)の講評を得ながら、意見交換を行う。また、ここでの学びの成果について、最終レポートを作成する。(担当: 山本・西野)	授業全体をふりかえり、学習した内容を整理しておく。(25分)	演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	75	演習場面への参加態度、グループでの活動状況、レポート課題の提出によって評価する。	

その他	25	ロールプレイ実習での体験をテーマとする「実習体験報告書」(所定の書式)によって評価する。
教科書		
テキストは使用しない。必要な資料は都度配布する。		
参考文献		
渡部信一監修(2011)高度情報化時代の学びと教育. 東北大学出版会 クリストファー・スモール(野澤豊一・西島千尋訳)(2011)ミュージッキング-音楽は行為である-. 水声社		
履修条件・留意事項等		
各自の研究を構築していくための機会として位置づけて授業に臨んでください。また、発達支援に関わるロールプレイ、臨床体験、討論等への積極的な参加が求められるので留意してください。		
備考欄		
2023年(令和5年)4月以降、「幼稚園教諭専修免許状」「小学校教諭専修免許状」に関する教育課程の科目であり、「大学が独自に設定する科目」の「教育実践に関する科目」区分における選択必修科目です。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		理論と実践の往還から学ぶ科目群 こども発達学実践演習科目					
科目名		こども発達学実践演習Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分		単位	2
担当教員	小椋 佐奈衣						
授業の位置づけ							
「こども発達学実践演習Ⅱ」は幼稚園教育における教育成果の形成を考究するための学問であり、こども発達学実践演習の科目である。							
授業の概要							
<p>①本演習は附属幼稚園及び協力幼稚園をベースにして保育・教育の実践を学ぶ。 ②幼児教育場面で収集された子どもと保育者のエピソードを基に実践方法を考究する。 ③模擬保育を展開してこども発達の実践の知識を探求する。</p>							
到達目標							
<p>①学生は幼児教育の実践的臨床的観点から保育・教育の場面を考察していく力を身に付ける。 ②学生はこどもの発達の知見が保育・教育実践に活用できるように知識を深める。 ③学生は保育の実践計画、記録や保育者との連携を基にした保育計画の立案ができる。</p>							
授業の方法							
実践的教育・研究の指導を通じて、幼児期・学童期の教育・保育の現場に求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成」するために、社会人を含めた大学院生自身の経験をとおした課題を分析し、活発な討議の方法を中核にすえて授業を展開して実践的な講義方法とする。							
ICT活用							
Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。パソコンや映像機器を利用してデータ収集や編集、発表の準備を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

保育士資格・幼稚園1種免許と短期大学保育学科の教員経験に基づき、保育内容・方法・こどもとの接し方・指導案の書き方保について、保育実習および幼稚園実習に向けて実践的授業の取り組みをする。

課題に対するフィードバックの方法

授業における討論のなかでの授業者からのコメント、及び複数回のレポートについてのコメントによってフィードバックを図っていく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	幼稚園教育要領に基づく5領域のねらい及び内容と発達を理解して考察する。	(準備学習)指定文献について、読み込みをしておく。(45分)	(事後学習)演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。(45分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第2回	保育・教育の実践における評価法を学ぶ。	(準備学習)指定文献について、読み込みをしておく。(45分)	(事後学習)演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。(45分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第3回	保育・教育の実践における評価法の実践を考究する。	(準備学習)指定文献について、読み込みをしておく。(45分)	(事後学習)演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。(45分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第4回	保育・教育の指導計画の立案の方法を再考する。	(準備学習)指定文献について、読み込みをしておく。(45分)	(事後学習)演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。(45分)
担当教員	小椋 佐奈衣		

第5回	3歳児の保育の構想①評価法の要件と開発を考究する。	(準備学習)指定文献について、読み込みをしておく。(45分)	(事後学習)演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。(45分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第6回	3歳児の保育の構想②教材研究と指導案を考究する。	(準備学習)指定文献について、読み込みをしておく。(45分)	(事後学習)演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。(45分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第7回	3歳児の保育の構想③模擬保育を実施し振り返りをして考察する。	(準備学習)指定文献について、読み込みをしておく。(45分)	(事後学習)演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。(45分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第8回	4歳児の保育と教育の構想①評価法の要件と開発を考究する。	(準備学習)指定文献について、読み込みをしておく。(45分)	(事後学習)演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。(45分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第9回	4歳児の保育と教育の構想②教材研究と指導案を考究する。	(準備学習)指定文献について、読み込みをしておく。(45分)	(事後学習)演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。(45分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第10回	4歳児の保育と教育の構想③模擬保育の振り返りをして考察する。	(準備学習)指定文献について、読み込みをしておく。(45分)	(事後学習)演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。(45分)
担当教員	小椋 佐奈衣		

第11回	5歳児の保育と教育の構想①評価法の要件と開発を考究する。	(準備学習)指定文献について、読み込みをしておく。(20分)	(事後学習)演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。(25分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第12回	5歳児の保育と教育の構想②教材研究と指導案を考究する。	(準備学習)指定文献について、読み込みをしておく。(40分)	(事後学習)演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。(45分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第13回	5歳児の保育と教育の構想③模擬保育の振り返りをして考察する。	(準備学習)指定文献について、読み込みをしておく。(40分)	(事後学習)演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。(45分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第14回	保育と教育現場における評価活動の手法を探求する。	(準備学習)指定文献について、読み込みをしておく。(45分)	(事後学習)演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。(45分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第15回	こどもの発達段階に応じた評価法と観察の信頼性と妥当性を考究する。	(準備学習)指定文献について、読み込みをしておく。(45分)	(事後学習)演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。(45分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業に関するレスポンスシートや課題の内容(50%)、授業での対話・討論への参加状況(50%)によって評価する。	

その他	0	なし
教科書		
子どもの能力と教育評価 東京大学出版会		
参考文献		
各回資料を配布する。		
履修条件・留意事項等		
各自の研究を構築していくための機会として、位置づけていくという姿勢で授業に臨んでもらいたい。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究所					
区分		理論と実践の往還から学ぶ科目群 こども発達学実践演習科目					
科目名		こども発達学実践演習Ⅲ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分		単位	2
担当教員	加藤 裕明						
授業の位置づけ							
<p>①本演習は、ディプロマポリシーの「こどもの成長・発達にむけた的確な教育・支援を実現するための教育研究を推進することができる。」と強く関係する科目である。</p> <p>②こども発達学基礎科目、こども発達支援教育関連科目、こども発達支援教育関連演習科目等に接続し、高度な実践力を持って実践的研究力を身につける科目として位置づけられる。</p>							
授業の概要							
<p>①本演習では、地域の幼児教育活動、発達支援活動、保護者支援活動、学校教育活動等のフィールドに関する知識を身につける。</p> <p>②そして、地域の教育実践活動のフィールドにおいて、参与観察の技能を身につける。</p> <p>③さらに、フィールドワークとして地域における教育実践活動に参画し、参与観察記録、エピソード記述等を作成できる。</p>							
到達目標							
<p>①地域の教育実践活動のフィールドに関する基礎知識を理解し、説明できる。</p> <p>②地域の教育実践活動を参与観察するための方法を活用できる。</p> <p>③地域の教育実践活動に従事する実践者と協力し、活動に参加し、参与観察記録やエピソード記述を作成できる。</p>							
授業の方法							
<p>①パワーポイントと配布印刷物を用いて解説する。</p> <p>②少人数のゼミ形式であり、文献購読、フィールドワーク等に関し、対話・討論を軸にすすめる。</p> <p>③フィールドワーク及び参与観察を実践し、受講生の対話・討議を軸にすえて授業を展開する。</p>							
ICT活用							
e-ラーニングのプラットフォームを活用し、遠隔による探究の場を効果的に取り入れる。また、各自の研究計画やレポートを参加者間で共有し、発表や対話の資料を作成し、アクティブ・ラーニングをすすめる。							
実務経験のある教員の教育内容							

・加藤は公立高等学校に30年間勤務し、教科指導、HR指導、生活指導をはじめとする実践経験を有する。この経験をふまえ、教師の学びと育ちについての考察を深めてきた。さらにこの間、部活動指導にも従事し、演劇教育を専門的に研究し、博士学位を取得した。以上の経験を活かし、子どもたちの信頼関係づくり、協働的、活動的な学びと表現創造、そして「社会情動的スキル」(非認知スキル)の育み方等について、具体的な子どもの姿を通して、アクティブ・ラーニングを実践していく。

課題に対するフィードバックの方法

授業では、e-ラーニングのプラットフォームを活用し、院生のレポートに関する指導教員からのフィードバックを毎回行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	今日の学校改革の課題と求められる教師像:その1 今日の学校改革の課題について考える。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第2回	今日の学校改革の課題と求められる教師像:その2 求められる教師像について、教師の資質の面から考える。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第3回	地域において教育改革を展開している実践家の講話(「これからの地域に求められる教育力」)について対話・討論する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第4回	講話(「これからの地域に求められる教育力」について)を素材にして対話・討論し、レスポンスシートを作成する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			

第5回	地域の教育改革の現場をフィールドワークし、参与観察記録を作成する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第6回	地域の教育改革の現場における子どもの活動に関する参与観察記録を素材にして対話・討論を進め、活動についてリフレクションを行う。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第7回	地域社会に開かれた教育課程の実践現場をフィールドワークし、参与観察記録をつける。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第8回	地域社会に開かれた教育課程の実践現場の活動に関する観察記録を題材に、小学校と保護者との連携・協力について対話・討論を行う。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第9回	地域のオルタナティブ・スクールを対象に、フィールドワークを行い、参与観察記録をつける。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第10回	地域のオルタナティブ・スクールの参与観察記録をもとに、対話・討論を行い、こどもの姿の見とり方に関する考察を深める。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			

第11回	これまでのフィールドワークの振り返りを行う。必要に応じて、活動場面のビデオ資料を活用し、対話・討議を行う。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第12回	今後の研究に向け、実践現場のフィールドワークについて、課題を明確にする。自分の研究テーマやフィールドについての資料を持ち寄り、共同の討議を通して情報の共有化を図る。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第13回	今後の研究に向けた研究計画に向かい、資料の収集及び活用を行う。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第14回	今後の研究に向けた計画をふまえ、実践記録や動画記録などを活用し対話・討議を行う。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第15回	授業全体について振り返りをし、受講者全員で対話し、今後の研究に向けた課題について対話や討議を行う。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業全体を振り返り、自分の研究テーマとの関連性を考える。(25分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・フィールドワークへの参加とその参与観察記録(50%) ・授業に関する各自の資料を活用した対話。討論への取り組み(50%)

その他	0	
教科書		
・授業の中で、必要なテキストや資料を適宜、印刷配布する。		
参考文献		
・佐藤郁哉(2002)『フィールドワークの技法』新曜社. ・加藤裕明(2016)「演劇教育による協働的創造性育成過程の質的研究ー演劇部活動における高校生の変化」北海道大学学術成果コレクションUSCUP(https://eprints.lib.hokudai.ac.jp)		
履修条件・留意事項等		
・各自の研究を構築していくための機会として位置づけてください。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究所					
区分		理論と実践の往還から学ぶ科目群 こども発達学実践演習科目					
科目名		発達支援分析評価法実践演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分		単位	2
担当教員	山本 愛子						
授業の位置づけ							
<p>本研究科は「高度な学問的成果と実践を往還しながら創意ある実践を展開できる力量を身につけた、将来の中堅のリーダーとなる人材の養成」を意図していることから、教育課程に「発達支援分析評価法実践演習」の科目が必修科目として設定されています。ディプロマポリシーでは、主に「知識・技能」の領域における「家庭や地域社会の変化に伴うこどもの発達の実態やニーズの多様化に対応して、適切な支援、指導、教育の実践を展開できる」に関わる科目として位置付けています。</p>							
授業の概要							
<p>発達支援に関するクリックカーを活用した分析・評価法について実践的に学びます。ここでは、実際に、発達面に課題のある子どもたちの集団遊戯療法として開発された「関係力育成プログラム(通称文教ペンギンメソッド)」によるロールプレイ実習および実際の臨床体験実習を行い、実習後に、自分たちの実習場面の映像について、反応収集提示装置「クリックカー(PF-NOTE)」を用いた分析を通して、振り返りを行い、次に続く発達実践演習及び課題研究を有効に進めるための視点の設定の仕方について学習します。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本学子育て教育地域支援センターにおける子育て・発達支援の理論と実際を理解し、実際に支援活動に参加することができる。 2. ロールプレイ実習体験を通して、発達支援における臨床実践の方法を習得し、実際の支援活動に生かすための手掛かりを得ることができる。 3. 発達支援における臨床実践の分析・評価の方法を習得し、子ども理解の在り方について討議することができる。 							
授業の方法							
<p>実践的教育・研究の指導を通じて、今日の幼児期・学童期の教育・保育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成する」ために、社会人を含めた大学院生自身の経験をととした課題を分析し、活発な討議の方法を中核にすえて授業を展開します。</p>							
ICT活用							
<p>この授業では、クリックカー(反応収集提示装置)による子どもの行動分析を行います。ここでは、発達支援にかかわって、特に集団遊戯療法場面に焦点を当て、クリックカーを用いた分析を体験します。受講者全員で分析結果のふりかえりを行うことを通して、集団遊戯療法の理論と実際に関する理解を深めます。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

授業担当者は、公認心理師・臨床心理士等の資格を持ち、これまでに精神科病院・教育相談機関での臨床経験を有しています。また、本学子育て教育地域支援センターにおいて臨床実践を続けています。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行います。

課題に対するフィードバックの方法

クリッカーを活用した行動分析に関しては、分析結果をフィードバックします。分析結果に基づいたディスカッションやレポート作成を行うことにより、さらに学びを深めます。また、授業における討論のなかでの授業者からのコメント、及び複数回のレポートについてのコメントによってフィードバックを図っていきます。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーションおよび授業担当者の教育相談に関する学習の軌跡と教育臨床実践の紹介をします。また、授業の内容や目的、進め方、留意すること等についての説明を行います。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第2回	受講生相互の自己紹介を通して、この演習を円滑に進めるためのベースを構築します。また、ここでは、受講生がペアになり、相互スクイグルに取り組みます。これらの取組を通して、発達支援に携わる者としての自己理解の重要性について理解を深めます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第3回	発達支援における実践のフィールドに関する理解：ここでは、この演習のベースとなる本学子育て教育地域支援センターの取組について、センター設立の経緯と基本的枠組み、センターによる子育て・発達支援の実践と研究の実際を中心に学びます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第4回	発達支援と臨床心理学の世界：発達支援と臨床心理学の関係性、歴史、背景について学びます。ここでは、臨床心理学の成り立ちについて学び、臨床心理学について理解を深めます。また、発達支援に関わる専門職および専門資格、職務内容、職域についても学習します。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			

第5回	発達支援と子ども理解(1): 発達支援において、子どもの状態像、性格特性、心理・発達面の状況を多面的に捉えるための子ども理解の仕方について学びます。ここでは、ブロンフェンブレンナーによって提唱された子どもの発達における生態学的システム理論の概念的枠組みを中心に学び、社会的文脈から子どもを理解するための視点の当て方について学習します。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第6回	発達支援と子ども理解(2): 発達支援における子ども理解の手立てとして風景構成法の理論と実際について学びます。ここでは、受講生がペアになり、子ども役とカウンセラー役に分かれて、実際に風景構成法の実施について、ロールプレイを通して学びます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第7回	子どもの行動観察と発達支援: 発達支援における行動観察の方法について学びます。ここでは、発達支援における行動観察の意義とその種類・方法について理解を深めます。また、保育臨床のフィールドにおける子どもの遊びの場面の観察・方法について学びます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	子どもの発達を支える専門職における「自己の内面に関する理解・分析」: 子どもの発達支援・教育に携わる立場として重要となるセルフアウェアネスについて学びます。ここでは、特に、自己の内面における価値の明確化のために、「あれか・これかの選択」「私のしたい20のことがら」の体験学習に取り組みます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	発達支援における遊戯療法の実践と分析(1): 遊戯療法に関する文献の講読を通して、発達支援・相談のあり方について学びます。ここでは、集団遊戯療法として開発された「関係力育成プログラム」に関する理論的枠組みを学び、それに基づく発達支援について理解を深めます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第10回	発達支援における遊戯療法の実践と分析(2): プレイルームにおいて、関係力育成プログラムに基づいたロールプレイ実習を行います。ここでは、集団遊戯療法として開発された関係力育成プログラムの基礎理論に基づいて、ロールプレイを体験します。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			

第11回	発達支援における遊戯療法の実践と分析(3): 関係力育成プログラムによるロールプレイ実習場面の映像を視聴し、クリッカーを用いて分析を行います。ここでは、反応収集提示装置「PF-NOTE」によるロールプレイ場面の評価・分析を実施し、その可視化グラフの波形に着目して全体で振り返りを行います。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第12回	子育て・発達支援における集団遊戯療法の臨床実践と分析(1): 関係力育成プログラムのロールプレイ実習を踏まえて、実際に、子どもたちを対象とした臨床実践の計画を行います。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第13回	子育て・発達支援における集団遊戯療法の臨床実践と分析(2): 子育て教育地域支援センターにおいて、関係力育成プログラムに基づく臨床実習を行います。ここでは、支援の実際について、体験を通して理解を深めます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	子育て・発達支援における集団遊戯療法の臨床実践と分析(3): 臨床実践場面の映像を視聴し、クリッカーを用いて分析を行います。ここでは、事前に設定した観察の観点に基づき、クリッカーを用いて臨床場面の分析を進めます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	演習の振り返りと学習の成果の確認:ここでは、この演習で学んだことについて、全体のまとめを行います。「発達支援における分析・評価」に焦点をあてて考察を行い、意見交換を行います。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	75	演習場面への参加態度、グループでの活動状況、レポート課題提出によって評価します。

その他	25	遊戯療法に関するロールプレイ体験に基づいた実習体験報告書(所定の書式)によって評価します。
教科書		
教科書は使用しません。必要な資料はその都度配布します。		
参考文献		
高度情報化時代の「学び」と教育 渡部信一編著 東北大学出版会 社会・情動発達とその支援 近藤清美・尾崎康子編著 臨床発達心理士認定運営機構監修 ミネルヴァ書房		
履修条件・留意事項等		
発達支援に関わるロールプレイ、臨床体験、グループによる体験学習の取組への積極的な参加が求められます。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		理論と実践の往還から学ぶ科目群 こども発達支援教育関連演習科目					
科目名		こども発達支援・臨床相談特別演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分		単位	2
担当教員	山本 愛子						
授業の位置づけ							
<p>インクルージョンに関する理解の高まりのなかで、幼児期・学童期の教育においても、特別なニーズを持つ子どもへの対応とインクルーシブな保育と教育の場の構築が喫緊の課題となっています。この課題に応えるために、教育課程のなかにインクルーシブな保育と教育を視野に入れた特別支援教育科目(8科目)が配置されており、本科目はそのなかの一つです。ディプロマポリシーでは、主に「知識・技能」の領域における「教育・保育において、多様なニーズを有するこどものインクルーシブな教育・支援を展開できる」に関わる科目として位置付けています。</p>							
授業の概要							
<p>発達面に課題のある子どもたちへの支援・相談について、理論学習および体験実習を通して実践的に学びます。ここでは、主として、本学の子育て教育地域支援センター(文教ペンギンルーム)をベースにして、①集団遊戯療法としての「関係力育成プログラム(文教ペンギンメソッド)」によるロールプレイ体験及び支援場面の振り返りのためのビデオ記録によるクlicker分析、②子どもを取り巻く家族関係への支援のための「FIT(Family Image Test)」、③子どもの特性を把握のための発達・心理検査の学習などを中心に、受講生の体験も交えながら学びを深めます。</p>							
到達目標							
<p>理論学習とあわせて体験学習や討論を行うことを通して、子どもの発達支援・相談における理論と方法について理解を深めることを目標とします。また、関係力育成プログラムに基づくロールプレイおよびクlickerを活用した行動観察・分析を通して、発達支援・相談のために必要な観察力を高めることを目指します。</p>							
授業の方法							
<p>実践的教育・研究の指導を通じて、今日の幼児期・学童期の教育・保育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成する」ために、社会人を含めた大学院生自身の経験をととした課題を分析し、活発な討議の方法を中核にすえて授業を展開します。</p>							
ICT活用							
<p>この授業では、クlicker(反応収集提示装置)による子どもの行動分析を行います。ここでは、特に集団遊戯療法場面をクlickerを用いて分析し、受講者全員で分析結果のふりかえりを行うことを通して、遊戯療法の理論と実際に関する理解を深めます。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

授業担当者は、公認心理師・音楽療法士等の資格を持ち、これまでに精神科病院・教育相談機関等での臨床経験を有しています。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行います。

課題に対するフィードバックの方法

クリッカーを活用した行動分析に関しては、分析結果をフィードバックします。分析結果に基づいたディスカッションやレポート作成を行うことにより、さらに学びを深めます。また、授業における討論のなかでの授業者からのコメント、及び複数回のレポートについてのコメントによってフィードバックを図っていきます。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーションおよび授業担当者の発達支援・心理臨床に関する学習の軌跡と臨床実践の紹介をします。ここでは、演習の内容や目的、進め方、受講にあたっての留意事項等についての説明を行います。	発達支援、臨床相談というキーワードについて事前に調べておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第2回	発達支援・相談における子どもの特性の理解：子どもにおける過去・現在の対人関係について、「私の対人地図」の作成を通じた支援の方法を学びます。ここでは、「私の対人地図」の作成によって、これまでの対人関係・現在の対人関係をふりかえり、マップとして視覚化する体験を行います。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第3回	発達支援における遊戯療法に関する理論(1)：遊戯療法に関する文献の講読を通して、発達支援・相談のあり方について学びます。また、関連する映像資料を視聴することを通して、遊戯療法についての具体的・実践的なイメージを持つことを目指します。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第4回	発達支援における遊戯療法に関する理論(2)：集団遊戯療法に関する文献の講読を通して、対人・対物関係場面における子どもに対する環境の側のかかわりについて、討論を交えながら理解を深めます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			

第5回	発達支援・相談における遊戯療法の実践(1): 集団遊戯療法の実践について映像を視聴し、討論を通して共通理解を深めます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第6回	発達支援・相談における遊戯療法の実践(2): 発達支援に関わる相談の事例を想定して、集団遊戯療法のロールプレイ実習を行います。ここでは、子ども・指導者・観察記録の役割担当によって集団遊戯療法の実践的な学びを深めます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第7回	発達支援・相談における遊戯療法の実践(3): 事例の設定による集団遊戯療法のロールプレイ場面について、子どもチームおよび指導者チームの動きに着目し、行動観察・分析を行います。ここでは、クリッカーを用いて分析を進めます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	家族関係に関わる支援の理論と実際(1): 日本における家族療法の歴史・背景について学び、子どもおよびその家族の構成員が抱く「家族イメージ」に関わる理論について学びます。特に、小学生とその家族による家族イメージについてFIT(Family Image Test)の類型を通して学習します。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	家族関係に関わる支援の理論と実際(2): 家族療法についてロールプレイを通して理解を深めます。ここでは、子どもの家族関係に関わる支援として、想定した相談事例に基づいた家族合同面接のロールプレイを行い、家族療法について実践的に学びます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第10回	家族関係に関わる支援の理論と実際(3): 家族療法における心理学的アセスメントの体験を通してこの療法の有用性について理解を深めます。ここでは、家族療法におけるアセスメント法として、家族イメージ法(FIT: Family Image Test)に取り組み、結果の分析を行います。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			

第11回	発達支援に関わる心理アセスメントの理論と実際(1):ブロンフェンブレンナーによる生態学的システム理論について学び、社会的文脈から子どもの発達を捉える視点について討論を通して理解を深めます。また、子どもを取り巻く環境における社会資源・子ども自身のもつ内的なリソースについて、臨床心理学的な視点から検討します。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第12回	発達支援に関わる心理アセスメントの理論と実際(2):発達支援に関わる知能検査について学びます。ここでは、主として、田中ビネー式知能検査の理論的枠組みについて学びます。このことを通して、発達支援における知能検査の理論的な位置づけについて理解を深めます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第13回	発達支援における心理アセスメントの理論と実際(3):発達支援に関わる心理検査について学びます。ここでは、主として、投影法における文章完成法(SCT)・P-Fスタディの理論について学び、子どものパーソナリティ特性について理解を深めます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	相談事例を通した発達支援・相談の理解:これまでに演習を通して学んできたことを総合して、母親からの相談を想定した相談事例について見立てから具体的な相談・支援の進め方まで、受講生自身が検討し、課題解決・発展のための手立てを分析していきます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	演習の振り返りと学習の成果の確認:ここでは、この演習で学んだことについて、全体のまとめを行います。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	75	演習場面への参加態度、グループでの活動状況、レポート課題提出によって評価します。

その他	25	ロールプレイ実習での体験をテーマとする「実習体験報告書」(所定の書式)によって評価します。
教科書		
教科書の指定は行いません。必要な資料はその都度配布します。		
参考文献		
臨床発達支援の専門性 西本絹子・藤崎真知代編著 臨床発達心理士認定運営機構監修 ミネルヴァ書房		
履修条件・留意事項等		
発達支援・カウンセリングのロールプレイ、テーマに基づく討論、グループ体験学習への積極的な参加が求められます。		
備考欄		
2023年(令和5年)4月以降、「幼稚園教諭専修免許状」「小学校教諭専修免許状」に関する教育課程の科目であり、「大学が独自に設定する科目」の「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目」区分における選択必修科目です。		